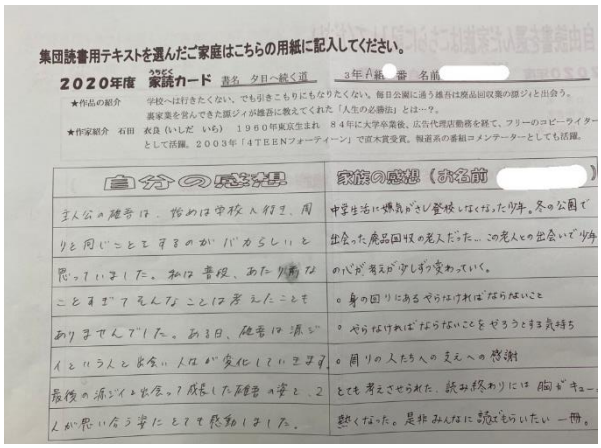
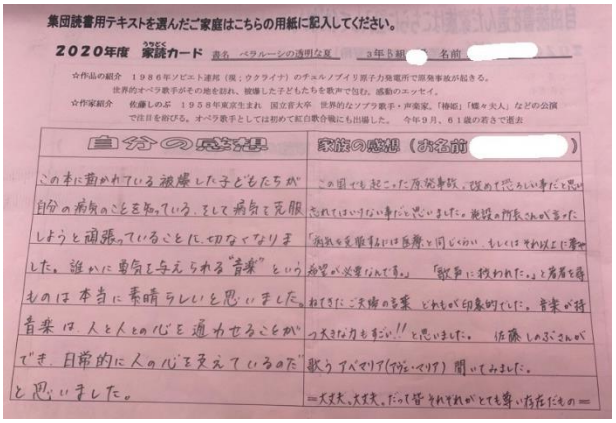
家読（うちどく）のすすめ　その2

～3 年生の巻～

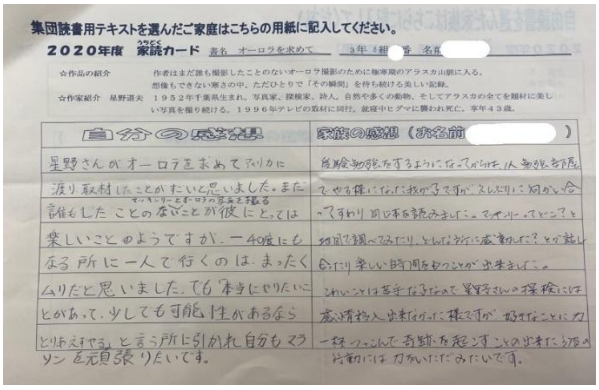
身延中学校では開校以来、家読に取り組んでいます。
方法は、「学校より配布されたテキスト」→→
（集団読書用として全国学校図書館協議会から出版されたもの）、
または「各家庭で選んだ本」のいずれかを選択し、家族の誰かと読書の時間を共有するといった提案型のものです。11 月中旬から１２月上旬にかけて 3 年生が取り組み、ほぼすべてのご家庭から感想を寄せていただきました。ご協力に感謝いたします。


集団読書用テキストを選んだご家庭はこちらの用紙に記入してください。
2020年度 家読（うちどく）カード 書名 夕日へ続く道 3年A組 番 名前

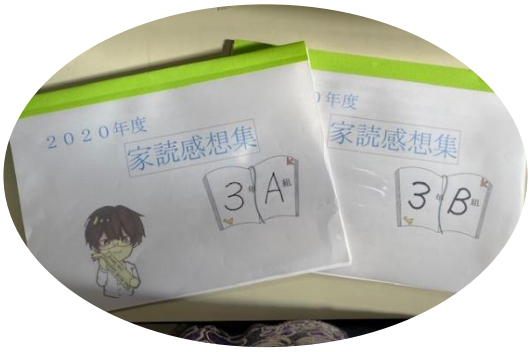
自分の感想	家族の感想（お名前 ）
主人公の陸哲は、怠めは中学校大好き、周りと同じことをするのがバカらしいと思っていました。私は普段、あたり前なことをすぐてそんなことは考えたことをありませんでした。ある日、陸哲は源ジイという人と出会い人なが変化していきます。最後の源ジイと出会って成長した陸哲の姿と、2人が思い合う姿にとても感動しました。	中学生活に嫌気がさし登校しなくなった少年。冬の公園で出会った廃品回収の老人だった。この老人との出会いで少年の心が考え方が少しずつ変わっていく。 ・身の回りにあるやらなければならないこと ・やらなければならないことをやろうとする気持ち ・周りの人たちへの感謝 とても考えさせられた。読み終ありには胸がキュー。黙くなった。是非みんなに読んでもらいたい一冊。


集団読書用テキストを選んだご家庭はこちらの用紙に記入してください。
2020年度 家読（うちどく）カード 書名 ベラルーシの透明な夏 3年B組 名前

自分の感想	家族の感想（お名前 ）
心の本に書かれている被爆した子どもたちが自分の病気のことを知っていて、そして病気と克服しようと頑張っていることに切なくなりました。逆に勇気を与えられる"音楽"というものは本当に素晴らしいと思いました。音楽は人と人との心を通わせることができ、日常的に人の心を支えているのだと思いました。	この国でも起こった原発事故。改めて思うべき事だと思われなければいけない事だと思いました。佐藤さんの所にきた「病気を重荷とは思わず、もしくはそれ以上に夢や希望が必要なんです。」「歌手に救われた。」と寄席を書いてきたご夫婦の言葉 どれもが印象的でした。音楽が持つ大きな力も感じ!! と思いました。佐藤しのぶさんの歌うイベリア(イヴェ・ベリア)聞いてみました。 ＝大丈夫、大丈夫、だって皆それぞれがとても尊い存在だもの＝


集団読書用テキストを選んだご家庭はこちらの用紙に記入してください。
2020年度 家読（うちどく）カード 書名 オーロラを求めて 3年A組 番 名前

自分の感想	家族の感想（お名前 ）
星野さんがオーロラを求めてアリカに渡り取材したことがすごいと思いました。また誰もしたことのないようなことを考えて行動することが彼にとっては楽しいことのようですが、一40度にもなる所に一人で行くのは、まったくムリだと思いました。でも"本当にやりたいこと"があって、少しでも可能性があるなら"とりあえずやる"と言う所に引かれ自分もマラソンを頑張りたいです。	自然の強さを感じるようになってからは、自然を観察してやる様になった私が子ですが、そんなりに何かを合って、すぐ自分も観てみたい。でもサーってどこ？と疑問を調べてみたり、そんななかに感動したり？とか楽しい時間を過ごすことが出来ました。 これからは、子ども達になって、星野さんの探検には感心情移入出来なかった様ですが、好きなことに力一杯ぶつかって、夢野を超えることの出来たら、誇りには力なりたいだけだいです。



心が温まるようなすてきな感想が寄せられました。すべて掲載できないことが残念です。

中３の忙しい中学生のこの時期にどうして「家読」なのでしょう？

読書は全ての学習の基礎です。入試では長文を読む力が試されます。他教科においても読解力は必要です。これらの力は突然つくものではなく、継続した読書で培われるものです。また高校入試の前期試験では「特色適正検査」が出題されます。日頃から多くの文章に触れ、自分の考えを巡らせることが大切です。家族で同じ本を読み合い、語りあうことは大きな財産となるはずです。

でも「家読」の一番のねらいはこれ！

本当は甘えたいけれど、甘えられないのが「中学生」の時です。同じ本を読んで、感想を共有する。ただこれだけですが、ほんのわずかでも親が「関わってくれた」その時間は子どもの心の奥の宝物になるはずです。また、保護者の皆さんにとってもお子さんの成長を知る機会になるのではないでしょうか。